

# 常任委員会の審議から

## 総務企画委員会

### 新税の本県独自の使い方は 湖沼・河川の水質浄化と 間伐材の活用推進に

**問** 森林湖沼環境税導入について県民の理解を得るには、使途に相当の配慮が必要である。本県独自の工夫点は何か。

**答** 湖沼・河川の水質浄化を直接対象とする点や、霞ヶ浦への排水規制強化と併せ規制の遵守を支援する点である。また、森林間伐材の活用も推進する。

**問** 森林湖沼環境税の導入により、県民意識を醸成し、環境保全活動への参加につなげることが重要であり、また、率先して保全活動を行うなど県職員意識改革も必要と考えるが。

**答** 県民意識の高揚は、環境保全事業と同じくらい重要であると考え。また、県職員の意識改革にも努めていきたい。

**問** いばらきの快適な社会づくり基本条例の主眼は。

**答** 社会の基本ルールを守る県民意識の醸成を図り、また、新たな問題に対応するため、啓発活動やルール作りに向けた協議の場を設けることである。

**問** いばらきの快適な社会づくり基本条例で、行政がモラルに踏み込むことに懸念はないか。

**答** 迷惑行為などの現状を踏まえ、皆でルールを守っていこうという宣言的条例であり、問題ないと考える。

**問** 茨城空港の Mascot キャラクター(MC)に「ハッ



間伐により保全された森林

スル黄門」を活用してはどうか。  
**答** MCは空港のPRに必要。知名度のある「ハッスル黄門」を基本に試作し検討を行う。

(ほかに、湊線再生への県の積極姿勢、つくばの研究成果の地域資源としての活用なども質問)

今回の委員会では、「広域行政の推進」及び「科学と技術を活かした県民生活の向上」に向け今後取り組むべき施策などを県執行部に提言しました。  
なお、今回、「茨城県森林湖沼環境税条例」について、総務企画、環境商工及び農林水産の三つの委員会合同で連合審査会を開催し、審議を行いました。

## 環境商工委員会

### 第二期牛久沼水質保全計画に おける新たな取り組みは TX沿線開発地域内に 雨水貯留浸透施設を整備

**問** 第二期牛久沼水質保全計画の中で、新たにどのような取り組みを組もうとしているのか。

**答** 汚濁要因となる初期雨水の流入を減らすため、つくばエクスプレス沿線開発区域内において雨水貯留浸透施設を整備し、面源対策を推進する。また、窒素やリンの処理が可能な高度処理型浄化槽の設置を促進する。

**問** ユニバーサル技能五輪国際大会で本県選手が好成績をあげたが、そうした成果を中小企業の技能向上につなげていくことが重要ではないか。

**答** 大会参加に向けた技能の研鑽や大会後の波及効果が企業の技能向上につながるものと考えている。また、子ども達の技能やものづくりに対する関心を高めるために役立てたい。

**問** 商店街支援事業の効果についての検証は。

**答** 過去の支援策は目に見えるような効果が上がったとは言えない面もあり、地域の創意工夫を応援する「がんばる商店街支援事業」を始めた。この事業では実



水質改善に向けた新たな取り組みが期待される牛久沼

年後に実績報告を行うほか、さらに、中間でも事業経過を検証することから、事業の実現性を担保しており今後の効果が期待できる。

(ほかに、中小企業地域資源活用促進法に係る認定のメリット、商工会に対する補助金削減の見直しなども質問)

今回の委員会では、これまで審査を進めてきた「多文化共生社会の実現」及び「産業を担う人材の育成」に関し、在住外国人への支援充実や、ものづくり現場への若年者・女性の就業促進など今後取り組むべき施策について県執行部に提言しました。

## 保健福祉委員会

### 食品の偽装表示に対する監視体制は 保健所と地方総合事務所が 連携した監視体制を構築

**問** 食品偽装問題がクローズアップされているが、これらの監視体制はどうなっているのか。

**答** 食品表示規制は複雑であり、食品衛生法とJAS法を各々所管する保健所と地方総合事務所と職員を相互に兼務させ、連携した監視体制を整えている。

**問** 介護保険の利用者は高齢者であり、不正請求を自ら発見するのは難しいが、チェック体制はどのようなになっているのか。

**答** 出先機関では地方総合事務所の福祉課と保健所が実地指導を行っており、不正が確認された場合には、本庁の介護保険室が監査を実施している。

**問** 全国的に産婦人科医が不足している中、他県と同じことをやっているのは、産婦人科医を確保できない。県は、どのような確保対策を講じているのか。

**答** 産婦人科医を選んだ後期研修医に対する奨励金とその研修医の受入医療機関への補助金を交付しているほか、産婦人科医は女性医師の割合が高いので、女性医師が働きやすい環境づく



卸売市場における早朝監視

りに取り組む医療機関に対して助成を行っている。

**問** 子どもから大人まで、心の病に苦しんでいる人が増えているが、うつ病対策としてどのような取り組みを行っているのか。

**答** うつ病対策に限定してはいないが、保健所で心の相談や精神科医による専門相談を実施している。また、精神保健センターでは精神科医、保健師、精神保健福祉士、心理技術者が相談援助を行い、うつ病など心の病気の早期治療を図っている。

(ほかに、県立病院における救急患者の受け入れ状況、BSE全頭検査の継続なども質問)